

20021

病棟内における統一オリエンテーションの必要性と効果についての検討

[目的]2011年の心臓・血管カテーテル再開後約4年経過し、CAG351件、PCI194件PPI183件を施行した。2013年、患者アンケートに基づき治療説明表を作成。2015年にスタッフ21名にアンケートを実施したところ、その方法と内容に差異の存在が判明した。業務改善、事故防止、患者不安の低減目的で統一されたオリエンテーションが必要と考えた。[方法]血管撮影室・CCUから病棟に異動となった看護師の意見を取り入れ、情報共有と知識向上を図った。スタッフ、患者へのアンケートで問題点を抽出。平均年齢71.4歳、糖尿病合併58.4%という背景から視能訓練士監修のもと、ユニバーサルデザインを取り入れた写真付きオリエンテーションシートと解説用のDVDを作成した。それらを使用しオリエンテーションを実施。再度病棟スタッフへのアンケート調査で効果を検討した。[結果]シートやDVD併用により、新入者でも統一されたオリエンテーションの実施が可能となり患者からの質問も減少した。[考察]すべての患者や家族に受け入れられるオリエンテーションシートと、より細かな質問に対応するためのQ&A形式資料を加えることで、幅広い患者層に受入れていただくことができた。スタッフはシートやDVDにより知識、経験に左右されない統一したオリエンテーションが可能となった。検査・治療を受ける患者の不安軽減は、結果として病棟スタッフの業務改善につながったことも報告する。